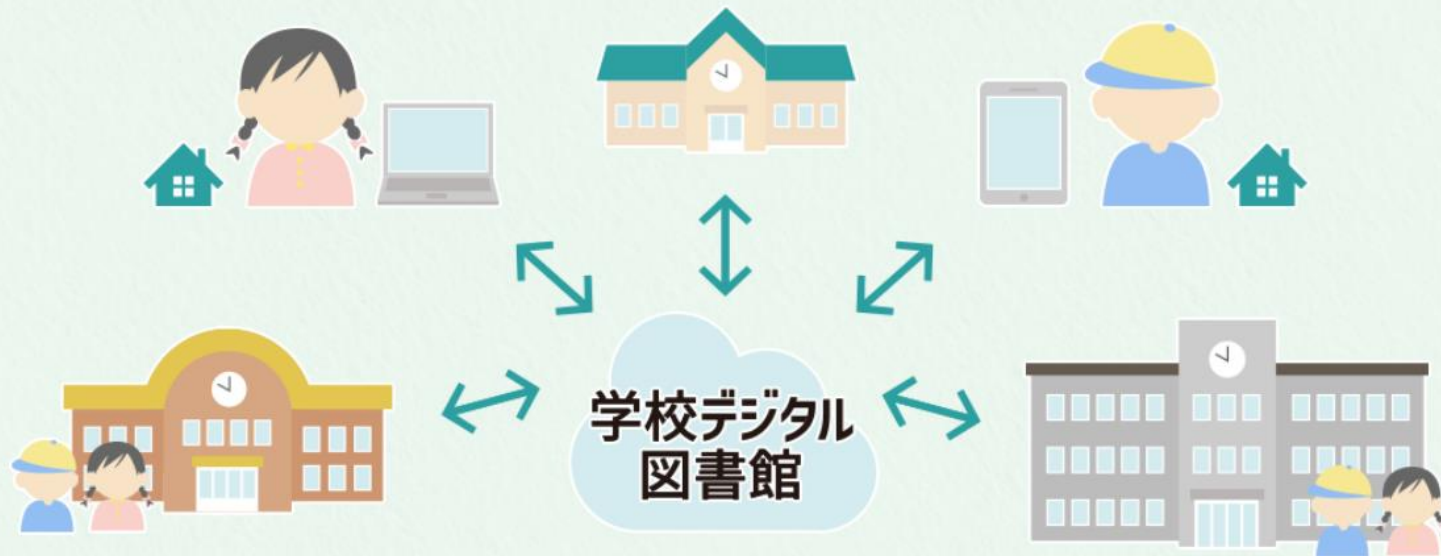


デジタル教科書と 学校デジタル図書館

一般社団法人 日本電子出版協会
電子図書館委員長 三瓶 徹

学校デジタル図書館とは？

About



国がクラウド上に作る唯一の小中学校向けのデジタル図書館です。

小中学校の生徒や先生向けに出版された多様なデジタル本や、紙の本は読めない子供のためにアクセシビリティに配慮したデジタル本、母国語が日本語ではない生徒が読む外国語のデジタル本も揃えて貰います。

先行する米国の例



住んでいる場所や両親の収入に関係なく、すべての生徒が素晴らしい本にアクセスできるようにするにはどうすればよいでしょうか。1冊の本だけでなく、何千ものタイトルのライブラリにアクセスでき、どこからでも読むことができたらどうでしょうか。

**2016年2月ホワイトハウスがOpen eBooksプロジェクトの立ち上げを発表
米国では以下の通り、数百万人の学生に、教育用電子書籍が提供されています。**

<https://www.whitehouse.gov/blog/2016/02/23/now-available-library-opportunity>

<https://www.jepa.or.jp/edupubinfo/openebooks/>

訴求ポイント

- 地域格差の解消のための公平なインフラとするために全国に1つの学校デジタル図書館
- 自治体の教育委員会まかせではなく、義務教育費として利用料を全額、国の負担とし、文科省自身が直接(特殊法人等で)サービスを提供

学校デジタル図書館は、学校司書が肝になる

従来からの仕事

教科担当への支援、蔵書管理、図書の選書・購入、読書推進活動の企画・実施、図書館資料の選定・収集・紹介・提供などの支援、子ども達の居場所

更なる仕事

デジタル教科書、教材と学校デジタル図書館内の電子書籍、統計資料、郷土資料を横断検索したり、学校デジタル図書館の資料をゲートウェイにしてWeb上の原資料へアクセスする方法など、多様なデジタル情報にアクセスするスキルを子供達に教えなければなりません。

しかし、現状は学校司書を取り巻く環境はあまりに疲弊しています。GIGAスクール構想や読書・学習・情報のセンターとしての「ラーニング・コモンズ」構想に、学校司書としてどう関わって行くか正念場になっています。緊急に学校司書の増員と文科省による学校司書のスキルアッププログラムの充実が必要です。